

2024 年度 京都精華大学 外部評価委員会 評価報告書

【2024 年度 外部評価委員】

委員長	半田 滋男（和光大学表現学部芸術学科教授）
副委員長	川崎寧史（金沢工業大学建築学部建築学科教授）
委員	松本美奈（東京財団政策研究所研究主幹/ジャーナリスト/上智大学特任教授/一般社団法人 Q ラボ代表理事）
委員	鶴田弘樹（名城大学事務局次長/総合企画部事務部長/大学教育開発センター事務部長）
委員	小島憲明（千葉敬愛学園常任監事）

2024 年 8 月

総評（京都精華大学の自己点検活動のあり方、手法等も含めた全体に対する評価）

今年度の外部評価では評価基準のうち「内部質保証」と「教育課程・学習成果」に係る自己点検評価活動について重点的に審議しました。提供して頂いた資料を事前精査、それに基づく説明、質疑応答の結果、昨年度来内部質保証組織の体系が明確化され、京都精華大学の自己点検活動は改善され順当な方法で進められていると評価します。

尚、主に学習成果の可視化などについて、いくつかの問題点が指摘されていますが、個々の指摘、要改善事項、附帯意見については、以下に委員ごとに内容を記述します。

また、点検項目を厳格に運用されすぎることによる教職員の疲弊、大学の没個性化の弊害も念頭におかれ、既存の項目の点検に終止せず、貴学本来の自由闊達な学風を今後とも一層進展させてゆくことを期待します。

2024年度 京都精華大学自己点検 外部評価委員 最終個別所見【内部質保証】

委員氏名	鶴田 弘樹
評価すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部質保証の推進に責任を持つ組織を「大学運営会議」に一本化し、会議の役割が明確になった点は評価できる。 ・ 大学運営会議を通じて、全学的な観点から「学長改善指示」を明文化し、改善の進捗状況確認を行っている点は評価できる。
改善すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部局別自己点検評価報告書から、学部の教育目標、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解に課題を持つ学部等があることから、今後、改善が望まれる。 ・ 内部質保証体系図において、各階層における「検証の指標」が示されているが、アンケート結果は各学部等でも活用されていることも踏まえ、改めてアセスメントプランを検証することが望まれる。
質問・その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学運営会議において、内部質保証の議論が活発に行われていると感じました。

委員氏名	川崎 寧史
評価すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年度以降、内部質保証の担う組織が大学運営会議に一本化され、組織体制がスリムに整理された。これにより、内部質保証の体系図も理解しやすいものとなった。 ・ 内部質保証規程が作成され、定義、基本方針、組織および役割、手続、所管部署、改廃が明文化された。 ・ 事務局学長室グループが教学IRを担い、各部局にデータ提供を行っている。 ・ 内部質保証規程の手続に沿った自己点検・評価が実施された。 ・ 自己点検評価報告フォームに「DPに基づいた学修成果の把握に関する点検」項目が追加された。 ・ 2023年度に自己点検評価に基づく学長改善指示が26件出され、うち17件が内部質保証に係る内容であった。 ・ 自己点検評価報告書（p.5）では自己点検評価活動の実質化、および各種学生アンケート結果に基づく各部局での改善活動が確認されている。
改善すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己点検評価報告書（p.5）では、4項目の取組・改善課題が記されている。 ・ 学生ヒアリング結果の総括がまとめられている。そのうち、DP、GPS-Academic、学習ポートフォリオに対する認知度や活用支援が全学的な共通課題として挙げられている。内部質保証としては、学部別の具体的なDPへの認知を高めることを検討されたい。
質問・その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年に引き続き、内部質保証に係る規程や実施体制の整備など、スピーディーかつ実質的に活動されている。特に、組織体制をシンプルにスリム化された効果は大きいと評価できる。

委員氏名	小島 憲明
評価すべき事項	<p>前回の是正勧告をうけ、執行機関で構成される最高機関を大学運営会議に位置付けし、質保証に関する規定を「京都精華大学内部質保証規定」に一本化して、その体系を「教育を中心とした内部質保証体系図」として可視化したことで質保証に係る体制の整備は改善され、整っていると評価できます。</p>
改善すべき事項	<p>体制の整備は整っているものの、学生へのDPが伝わっていない等、実態が機能しているとは言い切れない部分が見受けられましたので学内への周知の方法について改善を望みます。</p>
質問・その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ エビデンスは必ず残すことを望みます。

委員氏名	松本 美奈
評価すべき事項	ホームページで「内部質保証」を検索すると、すぐに「内部保証規程」と「質保証体系図」を開くことができます。学内外に周知したいという意欲が伝わります。 学長改善指示の進捗状況も、わかりやすく一覧表でまとめられています。
改善すべき事項	2022年度に受けた是正勧告を再検討してはいかがでしょうか。「教学マネジメントが機能していない」のは①規程が整備されていない ②学長のリーダーシップという看板と現実的な体制の齟齬 ③体系図と新体制の齟齬 ④データに基づいた自己点検・評価体制の脆弱さ ——と列挙されています。専任だけでなく非常勤教員も含めた見直しをご検討ください。
質問・その他意見	・「内部質保証の体制および役割、結果、方向性等について、全ての教職員の理解と共有を促し、組織文化として定着を図る」（内部質保証規程第3条）に、非常勤教職員も含まれると理解しました。 ホームページによると、専任：非常勤教員の比率は1：3.3（2024年5月1日現在）。教員だけでもこれだけの人数に、何をどこまで担っていただくのか、同僚性を担保できるよう、大学としての方針を周知してください。

委員氏名	半田滋男
評価すべき事項	・22年度受審の是正勧告、昨年度外部評価であがった問題については、ほとんどすべて対応しています。 ・改善は大学運営会議（旧教学運営会議）を通じて学長による指示がされ、その後の改善の進捗についても同会議で確認がなされています。
改善すべき事項	・報告書内容を繰返すことになるが、学部運営会議は、信憑性を担保するために、簡素なものでよいので議事録を採った方がよいと考えます。 ・「教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点」の項目で複数の部署より、「議論、検討、実施に要する時間が不足している」趣旨の回答があります。
質問・その他意見	

2024年度 京都精華大学自己点検 外部評価委員 最終個別所見【教育課程・学修成果】

委員氏名	鶴田 弘樹
評価すべき事項	・ 全学で卒業論文・制作、大学院における学位審査会において「評価ルーブリック」を活用しており、さらに、部局の自己点検評価報告書において、DPとの関連性を明確にしている点は評価できる。
改善すべき事項	・ 学部によって、学修成果の把握・検証に活用した指標等に偏りがあり、DPを測定するという観点から、再考が望まれる。 ・ 部局別自己点検報告書において、教育マネジメントにおいて困っている点などが記述されているが、これらの課題に対する次のアクションも明確にすることが望まれる。
質問・その他意見	・ 学生ヒアリングについて、目的に沿った学生の選抜が望まれる。

委員氏名	川崎 寧史
評価すべき事項	・ 自己点検評価報告フォームで教育目標やポリシー、シラバスなどに係る点検を行っている。 ・ 自己点検評価報告フォームに「DPに基づいた学修成果の把握に関する点検」項目が追加され、学修成果の把握・検証のツールや具体的な内容について点検を行っている。 ・ 各学部の学生ヒアリングが実施され、DP、カリキュラム、学修成果、教育納得度、教育ツールなどに係る把握が行われている。 ・ 自己点検評価報告書（p.6）では、評価できる点として全部局における卒業・修了制作・論文の審査に係るルーブリック評価について、DPとの整合が確認されている。 ・ 2023年度に自己点検評価に基づく学長改善指示が26件出され、うち9件が教育課程・学修成果に係る内容であった。
改善すべき事項	・ 自己点検評価報告書（p.6）では、2項目の取組・改善課題が記されている。その中でも、学修成果の把握・検証に係る全学アセスメントプランの再検証が最優先すべき事項と考えられる。 ・ 学生ヒアリング結果の総括がまとめられている。そのうち、DP、GPS-Academic、学習ポートフォリオに対する認知度や活用支援が全学的な共通課題として挙げられている。教育課程・学修成果としては、各種学習ツールの有効活用について検討が望まれる。
質問・その他意見	・ 全学アセスメントプランの再検証について：特色ある学部・学科・研究科を有しており、実技教育にも大きな重心がかかっているため、教育・研究の方法や学修成果の評価などは一様に共通化できないケースがあると推察できる。むしろ、これは貴大学の教育の多様性や魅力でもあるため、ある程度の幅やバランスをもって対応されることを望む。学内外への説明性が担保されていればよいと考えられる。

委員氏名	小島 憲明
評価すべき事項	教育プログラムについては、カリキュラムマップやルーブリックの活用や学生アンケートなど積極的に取り組んでいる。またHPに学生アンケート（キャンパスライフアンケート、授業評価アンケート等）可視化して情報公開している点は評価できます。
改善すべき事項	教育プログラムについての学生アンケート等からは、「DPの認知度」については、説明された記憶がない。「教育内容」については、フィードバックが少ない。「学習ポートフォリオ」については、知らなかったり、見たことがある程度の認識にとどまっています。 これらの教育プログラムについては、「学習のびき」を配布したり、「ホームページに掲載」するだけではなく、オリエンテーションやガイダンスなどの機会をとらえて学生に直に説明する必要があると考えます。
質問・その他意見	・ 学生は、レポートへのフィードバックが少ない、最終テストが何点だったかわからず納得がいかなかった。との意見がみられました。学生への指導や成績評価の観点からも工夫が望まれます。 ・ インターンシップが役立つのか疑問を感じてきつかった。との意見がありました。インターンシップについては、学生にとって有効な運営を望みます。

委員氏名	松本 美奈
評価すべき事項	アンケートやインタビューなど、学生自身に学習成果を確認する機会を設けている点は、評価できます。
改善すべき事項	学生ヒアリングに記載されていた「DPは聞いたことがない」「フィードバックが欲しい」などのコメントから、教職員との意思疎通ができていないと受け止めました。「フィードバック」は前記非常勤教員にも求めるのであれば、大学からの働きかけや支援策が必要ではないでしょうか。
質問・その他意見	学生が「評価」を学ぶ場をつくってみてはいかがでしょうか。アンケートやインタビューを見ると、学生が「評価」を理解しているようには見えません。これは他大学でも同じことが言えます。今後も「学生の声を聞け」という圧力は低くなることはないでしょう。他大学も困っています。今なら「ファーストペンギン」になることができます。

委員氏名	半田滋男
評価すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題点は報告書で言及し尽くされ、かなり徹底している印象です。 ・ 各科目とDPの関係が『学習のてびき』に一目瞭然でわかるように記載され、教育課程自体は、高度に体系化がはかられているように見えます。 ・ 『てびき』の課程ごとの履修モデルは、履修に際して学生に大きな助力になると考えられます。
改善すべき事項	学習ポートフォリオについては、オリエンテーション等でいねいに説明されているようですが、学生ヒアリング調査によると、認知が低いようです。但し、学部毎のディプロマポリシーも同様ですが『てびき』にも大きく扱っているので、学生側は一応認識しているが、重要性を感じていない可能性もあります。
質問・その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPS-Academic は、表現系学科において必要性を検討したらいかがでしょうか。 ・ クォーター制導入により、早々と必修授業を落として留年決定し、退学者が増加しているようなので対応が必要です。 ・ 様々な局面を通して非常勤教員との意思疎通、方針の理解を求めることが必要になると思います。